

しょう おう じ じ ぞう
祥應寺のお地蔵さま






祥應寺は鎌倉時代に武蔵国分尼寺付近に建てられました。
村人は阿弥陀さまへの信仰が厚く、石の板に阿弥陀さまを彫って、あの世への極楽を願う板碑をたくさん建てたようです。

くろがね

ここの土地から鉄のお姿の阿弥陀さまが掘り出されたので、
当時の村人はこの地を「くろがね」と呼びました。

いまは黒鐘公園の北に伝祥應寺跡地として今日もなおのこっています。





お寺の本堂前にはコノテガシワという中国から渡った縁起のいい樹が植えられていました。
むかしは葉が少なく、コノテガシワの実や葉は漢方薬として貴重な資源でもありました。
またコノテガシワは「兎手柏」と書かれ、万葉集でもよまれています。

奈良山の兎手柏の両面に
かにもかくにも倭人の体

作者 浦奈河文

千葉の野の兎手柏のはほまれど
あやに愛しむ置きて誰か来ぬ


作者 大田都呂人

徳川八代將軍の吉宗の頃、新田開発に
合わせて、当時の国分寺村の名主で
あった本多兄弟をはじめ村人たちが懸
命に耕します。

そして開発地に村人たちの菩提寺が必
要となり、「くろがね」の地にあった
祥應寺を移すことになりました。


この時にコノテガシワの古木も移され
ることになりました。





コノテガシワは手のひらをたくさん持つ千
手観音さまのように見えることから「千手」
という別名を持っています。
千手観音さまは阿弥陀さまの慈悲の使い
の菩薩さまともいわれています。

「ゴロゴロ。。。」



ある日の夕方、お寺の住職が松の剪
定をしているとあたりが薄暗くな
り、雷鳴が聞こえはじめました。

「バキバキッ……」

なんと、二本のコノテガシワのうち一本の樹に雷がすさまじい音をたてて直撃しました。



「……」

雷が直撃したコノテガシワは真っ黒に焼け焦げてしまいました。

「ドカッ……」
「いたたたっ」

住職は雷の爆音に驚き、

松の木から落下してしまいました。

住職はいい気持ちになっていると、コノテガシワが千手観音さまのお姿に変わりました。

松から落ちて足腰を痛めてしまった住職は休みがちになってしまいました。ある日のこと、焼け焦げたコノテガシワを残念に思いながら、般若（知恵）の湯が入ったひょうたんを片手に持ち、残されたコノテガシワを眺めています。

「おかしおかし、わたしはお釈迦さまからききました」

「弥勒菩薩が現れるまで、弥勒に代わって地藏菩薩がひとびとを救済するそうです」

「ひとびとの『願い』に応えるべく、落雷にあったコノテガシワを掘り起こして、地藏菩薩のお姿にするとういでしょう」と、お告げがありました。



「ガサツガサツ・・・」
あくる日、住職は千手観音さまのお告げの通りコノテガシワを掘り起こしました。この時に、村人がコノテガシワの年輪を調べたら樹齢六百年もあつたそうです。



住職は掘り起こされたコノテガシワをお地蔵さまのお姿になるように仏師のかたにお願いしました。



落雷にあつたコノテガシワは美しいお地蔵さまのお姿に変わりました。右手には錫杖を持ち、これは救済のためならどこにでも赴こうとするお地蔵さまのご慈悲のあらわれです。

左手には千手観音のお導きにあやかかって、般若の湯を入れた住職のひょうたんの器を持たせ、これはどんな願いでもかなえられるという如意宝珠をあらわし、豊かな智慧の力がこめられています。



祥應寺のお地藏さま
発行日 平成31年3月24日

発行／黄檗宗 黒金山 祥應寺
編集／地藏堂のあるまちづくり委員会
イラスト／新海晃治
印刷製本／神尾研二（はんこ屋さん21）



すべてのひとの願いがかないますように。

大願堂
だいがんどう